

日本家族看護学会 第31回学術集会

9月14日（土）10時40分～12時10分

交流集会

査読は対話だ！

―掲載までの道のりを紐解く―

企画：一般社団法人日本家族看護学会 編集委員会

調査概要

・調査の目的

会員の投稿や査読への不安や困りごと、要望を集約する

・対象者

日本家族看護学会 会員

・調査内容

1) 回答者属性

2) 投稿者としての困った経験 3) 投稿者として査読に希望すること

4) 査読者としての困った経験 5) 査読者として心がけていること

・調査方法

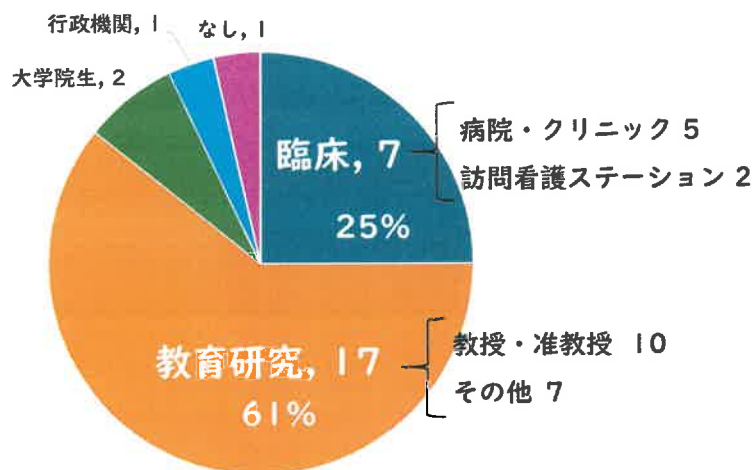
会員向けメールマガジンでの周知

・調査時期

2024年6～7月

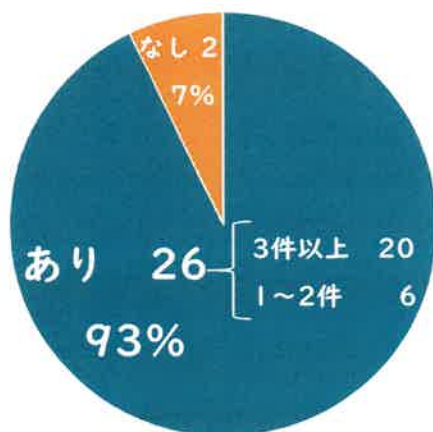
1) 回答者属性(n=28)

回答者の所属

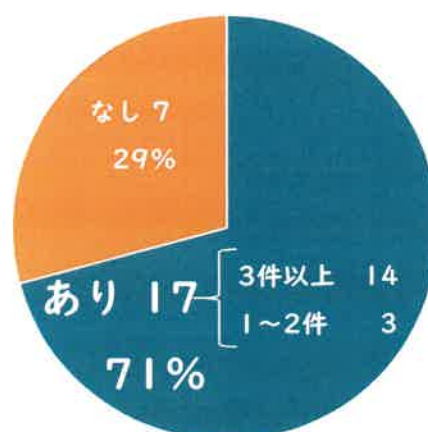


1) 回答者属性

投稿経験(n=28)



査読経験(n=24)



投稿・査読での困った経験 結果の概観

編集委員



投稿者

査読者



- ★字数超過に配慮しながら修正する
- ★査読者に意図を理解してもらえない

- ★著者の意図を汲めない
- ★体裁が整っていない

★自身と査読者で意見が平行線



- ★査読者の意図を汲めない
- ★査読意見が厳しい
- ★後々で指摘される
- ★論文種別変更の理由が不明である

- ★査読者間での意見の相違がある
- ★査読者が論文を十分理解していない
- ★査読なのか指導なのか分からない

- ★査読評価の判断が難しい
- ★求める水準の判断が難しい
- ★専門外の場合

2) 投稿での困った経験

記述データ(n=21)



投稿者から

- ★査読者間での意見の相違がある
- ★自身と査読者で意見が平行線
- ★査読者の意図を汲めない
- ★査読者に意図を理解してもらえない
- ★査読者が論文を十分理解していない
- ★査読意見が厳しい
- ★字数超過に配慮しながら修正する
- ★後々で指摘される
- ★論文種別変更の理由が不明である

2) 投稿での困った経験

★査読者の意図を汲めない



投稿者から

- 査読者の**意見が分かりにくく**、どのように修正すればよいか悩んだこと
- **ざっくりとした示唆**で何を求めているのかわかりにくい
- 査読者のコメントの**意図がわからない**とき
- **質問の内容がわかりにくかった**時

★査読者に意図を理解してもらえない

- 査読者に理論的背景を説明する際、**文章での説明では限界**がありもどかしさを感じたこと
- **研究の意義を理解してもらえなかった。**
- 査読者への回答が難しい場合

2) 投稿での困った経験

★査読者間での意見の相違がある



投稿者から

- 複数の査読者がいる場合、**意見の相違があり修正するために複数回のやり取りが必要となり難渋**しました。また、別の査読では査読に2～3カ月の時間がかかり年度内に終了を予定が期限直前になり焦りを感じました。
- 査読者1・2で**大きく意見が異なる**こと
- **2人の査読者が異なることを言っている**
- **査読者により、査読内容の方向性に差がありすぎる**。まったく取り合ってもらえない人もあれば、こちらの意図を組んで、なぜそのような査読結果になるかを示してくれる人もいます。
- 指導教員の**指導内容と査読者からの意見が大きく異なる**こと

2) 投稿での困った経験

★自身と査読者で意見が平行線



投稿者から

- 査読者の**ご意見と、論文で表現しようとしていることが平行線のように感じる**ことがありました
- (こちらの説明力不足もあるが) 査読への**回答を理解してもらえず平行線**をたどる。
- 査読者の**指摘が意に添わない**
- 複雑な心境、査読者の**意見に沿った修正をしないと掲載されないという心境**になります

2) 投稿での困った経験

★字数超過に配慮しながら修正する



投稿者から

- 字数制限の対応が困難なくらい追加すべきとコメントがあるが、**字数超過に対してどこを削除すべきか、どこまで字数超過が許容されるのかわからない**とき

★後々で指摘される

- 1回目に指摘されないことが2、3回目の査読で指摘される。

★論文種別変更の理由が不明である

- 論文種別変更の理由が不明

2) 投稿での困った経験

★査読者が論文を十分理解していない



投稿者から

- **きちんと読んでいただけていないと思われる**査読の返事をいただいたとき。
- methodに2次分析だと書き、限界にも書いているのに、「この研究をするならあの変数がないのはおかしい、なんでですか？」など、**研究デザインをきちんと理解できていないのではないかと思うような指摘**を受けたりすると、本当に困る

★査読意見が厳しい

- 厳しい査読
- (家族看護学会誌ではないですが) **査読者の指摘が高飛車で説教や叱責が入った**もの。指摘事項が学術的ではない、筋違いな内容だった。

3) 査読での困った経験

記述データ(n=14)



査読者から

★査読評価の判断が難しい

★査読なのか指導なのか
わからない

★求める水準の判断が難しい

★論文の体裁が整っていない

★著者の意図を汲めない、
修正だけで問いへの回答がない

★専門外の場合

3) 査読での困った経験

★査読評価の判断が難しい



査読者から

- ・ 1回目の査読でリジェクトすべきかどうか
- ・ 内容が稚拙であるが、何とか修正で論文にならないか、と悩む。
一方で、必死に修正を指摘したにも関わらず、修正が正しくなされない時に困る。
- ・ 最近、「なるべく落とさない」「教育的な査読を」「指摘は1回目だけで」のような指示が編集委員からくることがある。1度で指摘するのはとても難しい論文も数多くある。そのような場合は、編集委員でeditor kickを適切にしてほしい

3) 査読での困った経験

★求める水準の判断が難しい



査読者から

- ・ どこまでのレベルを求めるかを判断すること
- ・ よりよいことをどこまで提示するのか
- ・ 研究方法の理解が不十分なまま、「やり方」だけをなぞっているような研究の場合、本当に良い研究にするには分析のやり直しが必要そうに思うけど、そこまで指摘していいのか迷う。

3) 査読での困った経験



査読者から

★著者の意図を汲めない、 修正だけで問いへの回答がない

- 著者の意見を知りたいと思ってコメントしても、査読の通りに修正されてくることもあり、**本当に著者が納得しているのか悩む**
- **質問の意図が伝わっておらず**求める回答がこない、修正されてこない
- **問いに対してしっかり回答してくれず**、修正したことだけ書かれている査読回答

3) 査読での困った経験



査読者から

★査読なのか指導なのかわからない

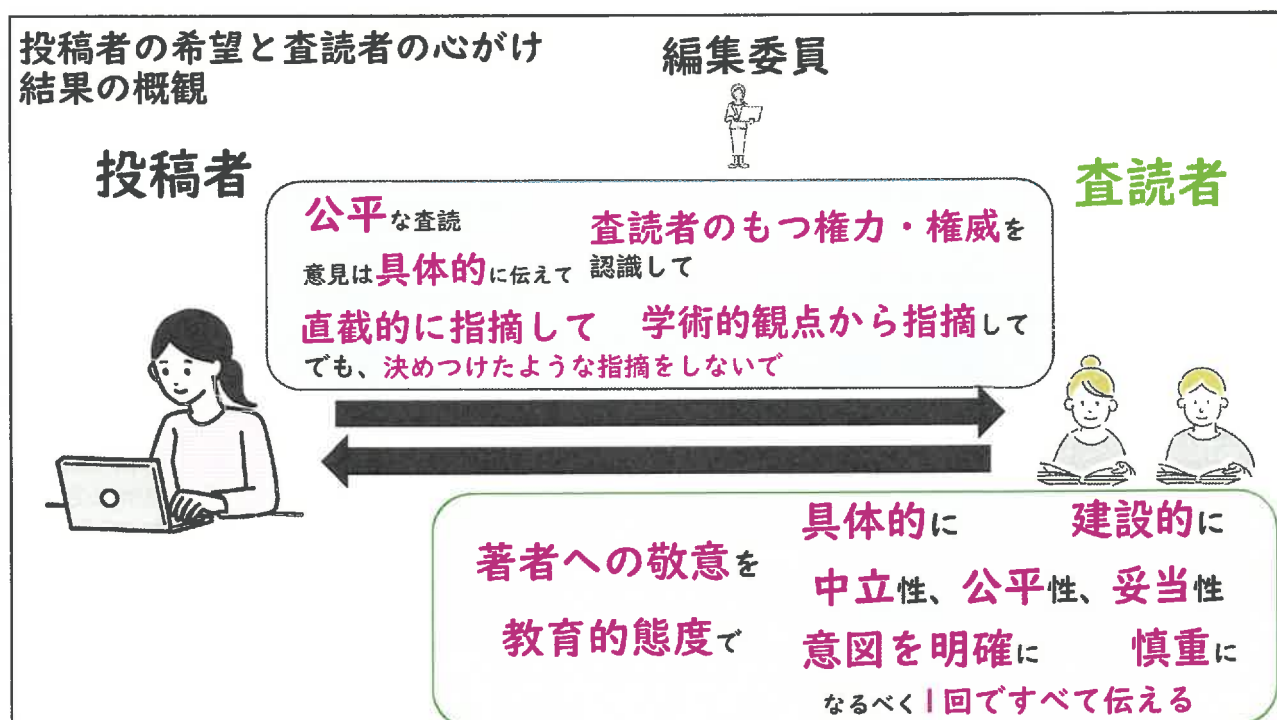
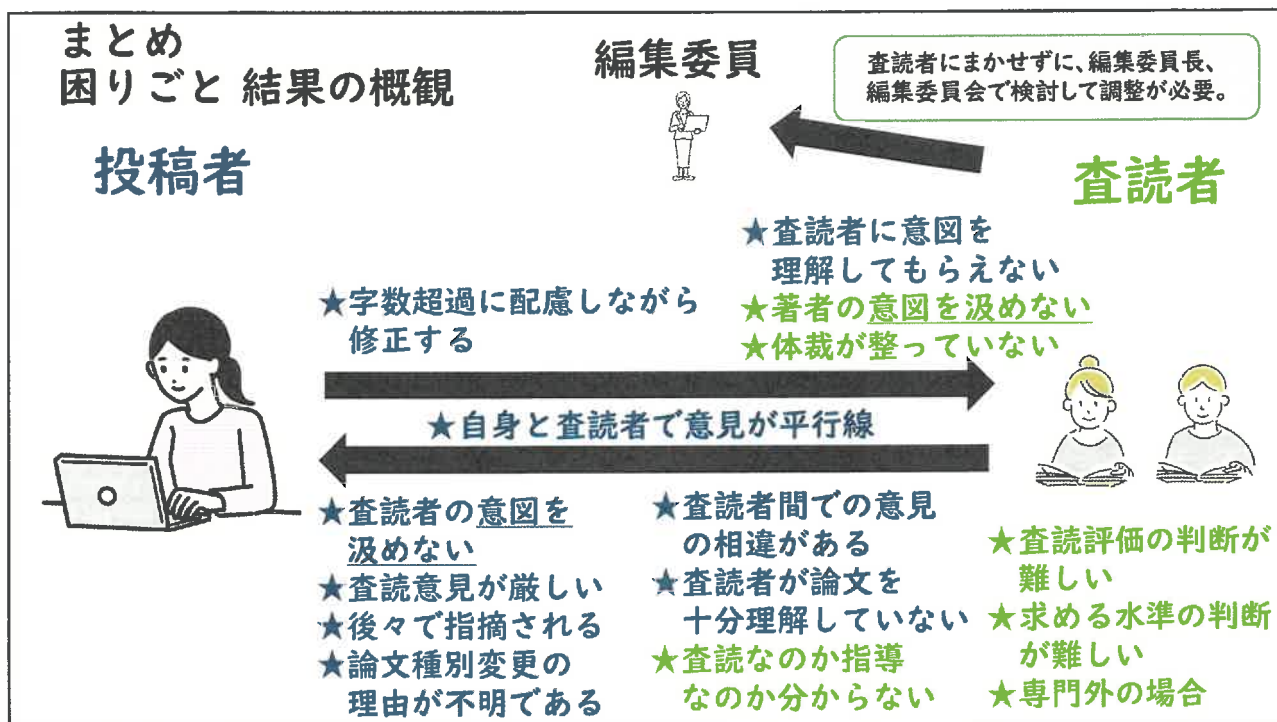
- 指摘しなければならないことが多い場合
- 査読なのか論文指導なのか分からなくなること

★論文の体裁が整っていない

- 論文の体裁として全く整っていない場合
- 日本語のレベルで精練されていない、投稿規程に合っていない論文への対応

★専門外の場合

- 自分の専門外や知識不足で査読が難しいと感じる場合もある



4) 査読者に希望すること

記述データ(n=14)



投稿者から

公平な 査読

意見は**具体的に**伝えてほしい
(実践者による投稿の場合は特に)

何を指摘されているか理解できないと対応に
困るので、**直截的に指摘して**ほしい

決めつけたような指摘をしないで

ほしい。こちらも戸惑う

査読者のもつ権力・権威を

認識してほしい

メジャーコメントとマイナーコメントに分けて、

メジャーコメントは学術的観点から指摘をしてほしい

査読マニュアルにできるだけ従ってほしい。修正し提出しても次から次へと
新な指摘が出てくることがある。

査読に**時間を要するようであれば期間等を教えて**ほしい

最低限、研究デザインや統計手法に関する**知識を身につけた人が査読員になるべき**
自身が筆頭著者として、**複数の論文投稿をされた経験のある方が査読者に望ましい**

5) 査読で心がけていること

記述データ(n=13)



査読者から

具体的に

(例えば、～など)

意図を明確に

中立性、公平性、妥当性

自分の考えをあまり強く反映させない

著者への敬意を

著者が表現していることを理解しようとする態度

建設的に

学術性を尊重、論文そのものを査読する

投稿者の立場を考えてコメントする

なるべくポジティブに、いい論文になるように

慎重に判断

なるべく**1回ですべて伝える**

可能な限り**教育的態度で**

他の査読者の意見とその修正結果も参考にする

改めて査読指針を確認

査読の立場と査読の方針

1. 論文の内容が、査読者自身の意見と一致しない、あるいは相反するなどによって、採用・不採用を決めることのないようにお願いいたします。
2. 著者が論文を書き慣れていないと思われる論文で、体裁は整っていないが、その内容は本誌に掲載する価値がある場合には、できる限り「教育的・建設的な査読」をお願いします。

日本家族看護学会 査読指針
令和5年1月21日版

改めて査読指針を確認

査読の方法

1. まず Major comment を先に記載し、その後に Minor comment を簡潔に記載
2. 原則として、第1回の査読で問題点を全て指摘し、2回目以降には新たな問題点の指摘は行わない
3. データが不足しており調査・実験の追加が必要な論文は、「不採用」
4. 原則として、第1回の査読の時点で、概ね全2回の修正を経ても掲載可能な状況に至らない（軽微な修正を除く）と考えられる場合は、一旦取り下げて論文を洗練することを提案

日本家族看護学会 査読指針
令和5年1月21日版